



平成27年
12月7日
(月曜日)
第1256号

園芸新聞

発行所
株式会社園芸新聞社
〒180-0001 武蔵野市
吉祥寺北町4-7-13
電話 0422(51)8953
FAX 0422(55)7187
発行人 前田 彰宏
購読料 1ヵ年5,400円
振替 00130-2-85300

転炉スラグは有望な資材

11月27日

東京 後藤名誉教授が基調講演

東北農研がシンポジウム開催

農研機構東北農業研究センター主催、東京農業大学、日本土壤肥料学会、日本植物病理学会後援の「転炉スラグは有望な農業資材となり得るか?—農業分野での技術開発の可能性を探る—」と題するシンポジウムが、11月27日(金)10時から、東京・世田谷区の東京農業大学世田

谷キャンパス内横井講堂において農業関係の研究機関、大学、団体などから約250名参加のもと盛大に挙行された。転炉スラグは有望な農業資材であるとの意見がほとんどを占めたことはひじょうに画期的な催しであった。

で「転炉スラグは有効」と日本農業新聞で紹介されたことで、が然、農業利用に効果があることが認められたのである。ただし、転炉スラグ

まず主催者の東北農業技術センターが開会の挨拶を行ったあと基調講演に移った。講師は転炉スラグのフリーライム(CaO)に着目して土壌酸性改良資材としての効果が確認することから研究をスタートさせた東京農業大学後藤逸男名誉教授が、東京三鷹市の農協を通じて、カリフラワーとブロッコリーに根こぶ病が蔓延して困っているのが協力要請を受けた。

相馬市において、約4、000トの転炉スラグが除塩促進・土壌酸性改良資材として活用され、約650畝の水田で営農が再開された。それが認められたこと

そこで畑の半分に転炉スラグを10t、5t施用、0.5tから6.9に高めて栽培したところ発病抑制効果認められ、5年後には市内の畑から根こぶ病が一掃された。

続いて、①土壌病害の被害軽減技術への利用、②土壌病害の被害軽減機構の解明とその利用技術、③新たな分野への利用の3セクションに分けて話題提供が行われた。

根こぶ病・ホモブシセルス根腐病・萎黄点から面へ

根こぶ病、萎黄病、セルリー萎黄病、ウリ科のホモブシス根腐病、ネギ黒腐菌核病、エビ芋萎凋病などに深刻な被害を受けた農家グループから東京農大土壌学研究室に協力を求められたが、当時の土壌肥料研究者や普及指導員から「非常識」な理論であるとの批判を受け、後藤氏の土づくり運動にも厚い壁に阻まれるという始末であった。

③栽培農家での利用現状と課題(とびあ真) 農業協同組合高島彰彦氏

第1セクション

しかし、転炉スラグが以外な威力を示したのは2011年3月11日の東日本大震災に伴う大津波で被災を受けた福島県

(座長)東北農業研究センター御子柴義郎氏
テーマと発表者は、①東北における野菜類土壌病害の被害軽減技術への利用(青森県産業技術センター農林総合研究所岩間俊太氏)

第3セクション

転炉スラグの有効性を検討の総合討議の模様。右端は東北農研の門田座長とスピーカーの先頭は後藤逸男東京農大名誉教授

(座長)東北農業研究センター今崎伊氏

農研機構東北農業研究センター主催、東京農業大学、日本土壌肥料学会、日本植物病理学会後援の「転炉スラグは有望な農業資材となり得るか?—農業分野での技術開発の可能性を探る—」と題するシンポジウムが、11月27日(金)10時から、東京・世田谷区の東京農業大学世田

11月27日

東北農研がシンポジウム開催

東京 後藤名誉教授が基調講演

谷キャンパス内横井講堂において農業関係の研究機関、大学、団体などから約250名参加のもと盛大に挙行された。転炉スラグは有望な農業資材であるとの意見がほとんどを占めたことはひじょうに画期的な催しであった。

で「転炉スラグは有効」と日本農業新聞に紹介されたことで、が然、農業利用に効果があることが認められたのである。ただし、転炉スラグに

も欠点がある。それはカルシウムに対してマグネシウム含有量が少ないこと、施用後の土壌中の塩基バランスを保つため転炉スラグ施用後10%程度の水酸マグネシウムを併用することが望ましいとしていた。

最後に後藤名誉教授は「転炉スラグは健康な土づくりに役立つ農業資材である」と基調講演を結

び、満場の拍手を浴びた。また、後藤名誉教授は転炉スラグの利用技術は点から面へ始まり始めた

と述べ、転炉スラグを活用した根こぶ病対策が注目され始め、2006年には宮城県からの要請により普及センターと共同でプロックリーの栽培試験を行っており、三重県、大分県、熊本県、千葉県、青森県などの公的機関で現地試験が行われるようになった。

また、後藤名誉教授は転炉スラグの利用技術は点から面へ始まり始めた

相馬市において、約4,000トンの転炉スラグが除塩促進・土壌酸性改良資材として活用され、約650畝の水田で営農が再開された。

それが認められたこと

根こぶ病・ホモプシ・セルリー・ス根腐病・萎黄病

点から面へ普及拡大

まず主催者の東北農業技術センターが開会の挨拶を行ったあと基調講演に移った。講師は転炉スラグのフリーライム(CaO)に着目して土壌酸性改良資材としての効果が確認することから研究をスタートさせた東京農業大学後藤逸男名誉教授が、東京三鷹市の農協を

根腐病、ネギ黒腐菌核病、エビ芋萎凋病などに深刻な被害を受けた農家グループから東京農大土壌学研究室に協力を求められた

続いて、①土壌病害の被害軽減技術への利用、②土壌病害の被害軽減機構の解明とその利用技術、③新たな分野への利用の3セクションに分けて話題提供が行われた。

③栽培農家での利用の現状と課題(とびあ浜松農業協同組合高倉克弥氏)

①作物のカドミウム吸収抑制への利用(東京農業大学応用生物科学部大島宏行氏)

第1セクション

①土壌病害の被害軽減機構の解明とその利用技術、③新たな分野への利用の3セクションに分けて話題提供が行われた。

①被書軽減機構の解明の取り組み(東北農業研究センター門田育生氏)

①作物のカドミウム吸収抑制への利用(東京農業大学応用生物科学部大島宏行氏)

第2セクション

②土壌病害の被害軽減機構の解明とその利用技術、③新たな分野への利用の3セクションに分けて話題提供が行われた。

②土壌微生物の動態から見た転炉スラグの特性(北海道農業研究センター森本晶氏)

②藻場造成等海域利用に向けた取り組み(新日鐵住金㈱先端技術研究所加藤敏朗氏)

第3セクション

③新たな防除技術開発に向けて(東北農業技術研究センター今崎伊織氏)

③水田で発生するメタゾオン制御利用に向けた取り組み(千葉大学園芸学部犬伏和之氏)

③水田で発生するメタゾオン制御利用に向けた取り組み(千葉大学園芸学部犬伏和之氏)

③新たな防除技術開発に向けて(東北農業技術研究センター今崎伊織氏)

③新たな防除技術開発に向けて(東北農業技術研究センター今崎伊織氏)

③新たな防除技術開発に向けて(東北農業技術研究センター今崎伊織氏)

③新たな防除技術開発に向けて(東北農業技術研究センター今崎伊織氏)

谷キャンパス内横井講堂において農業関係の研究機関、大学、団体などから約250名参加のもと盛大に挙行された。転炉スラグは有望な農業資材であるとの意見がほとんどを占めたことはひじょうに画期的な催しであった。

谷川法聖氏

センター

高めた土壌で栽培した作物中ではホウ素やマンガンが炭カル区よりも多く吸収されることが明らかになったという発表が注目された。